

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 京都市立紫竹小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校, 各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒603-8422

E-mail shichiku-s@edu.city.kyoto

Website _____

幼児児童生徒数 男子 125名 女子 139名 合計 264名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳 ~ 12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1, 2-1に対応

当校は、「豊かな心を育み、自ら学び、たくましく生きる紫竹の子」を学校理念(※もしくは活動テーマ)として、ESDを目指す子ども像に迫るための一つの機会と捉え、ESDの実践を通して優しさや思いやり、主体的に学ぼうとする力の育成を目標とした。

具体的には、環境問題や食育、伝統文化を柱に、①環境に係わる活動、②食育に係わる教育、③伝統文化に係わる学習を行った。

① 環境に係わる活動

「環境」については、5年生での総合的な学習の時間を中心に取り組んでいる。身近な環境問題を調べることから、自分たちにできるエコの活動を考え、それを世界や地球レベルでの環境問題へと広げて学習を進めることができた。最後には、地域での「エコフェスタ」において学習してきたことをグループごとに発表し、自分たちの考えを発信することができた。

② 食育に係わる教育

家庭科や土曜学習において「出汁の学習」や「和菓子作り」の学習を行った。6年生の家庭科の「出汁の学習」では、出汁がある場合とない場合、いろいろな材料を使った出汁の違いなどを確かめながら学習を進め、出汁の大切さや、おいしい出汁を作るいろいろな方法を学んでいた。土曜学習での「和菓子作り」では、和菓子職人の皆さんを講師に招き、和菓子の歴史や和菓子の持つ文化にもふれながら、実際に和菓子作りを体験することができた。子どもたちは美しい和菓子を作るための方法を教えてもらいながら、技の難しさや、職人さんの技術の高さに気付かされていた。最後には自分の作った和菓子をいただき、和菓子の繊細な甘みを味わうことができた。

③ 伝統文化に係わる学習

伝統文化については、6年生の総合的な学習の時間を中心に学習を進めている。6年生では、「茶道」「華道」「出汁作り」などを体験し、調べたことを実際に確かめたり、更に学習したことを深めたりすることができた。また、土曜学習では「藍染」や「書道」などの体験も行っており、日本の文化をいろいろな場面で触れることができている。また、3年生では地域の神社を調べたり、地域のゲストティーチャーから学んだりしている。学習を通して日本や地域の文化の良さを十分に味わい、そのことから日本やこの地域に親しみを深めることができた。

① エコフェスタの写真



② 和菓子作りの写真



③ 華道体験の写真



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解, 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化, 文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的, 総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍, ウェブサイト, パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間の大きなテーマとして、5年生では「環境」、6年生では「文化」を取り上げている。5年生の環境学習では、環境とそれに関わる問題について関心と感受性を持ち、自分たちの立場と役割を理解し、環境の保護改善に参加する意欲と問題解決のための技能などを身につけ、また適切な行動を起こすために、環境問題に関する責任と事態の危急性についての認識を深めることをねらいにしている。6年生の伝統文化の学習では、グローバル化の中で、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々との共存のため、自らの国や地域の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を身に付けることをねらいにしている。総合的な学習の時間では、体験活動や作業的活動、互いの意見を深め合う活動など多様な学習形態を取り入れ、主体的に問題解決を図る学習を進めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

総合的な学習の時間では、学年ごとに、3年生で「地域」、4年生では「福祉」、5年生では「環境」、6年生では「文化」とテーマを定め、体験活動などを取り入れながら問題解決的な学習を進めている。学年でのテーマを固定することで4つのすべてを網羅でき、ここ数年、継続して取り組んでいる。環境面では、「ごみ0」の取組やエコフェスタへの参加など児童会や地域行事と関連しながら、作業的な活動の取組や学習してきたことを発信する取組などを計画的に行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校運営協議会などを通して、取組の振り返りを行い、いろいろな取組についての意見をいただいている。例えば、「子どもたちの発表の様子や活動の様子から大人も考えさせられることが多かった。」といった感想も聞かれ、子どもたちの発信が実際に啓発活動として役立っている。一方で、まだまだものを大切にできなかったり、ものを無駄遣いしたりする場面が見受けられるなど、学習したことが日常の生活や学校生活に結びつかないなどの課題も明らかになった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ, 大学, ESD活動支援センター, ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)
※チェック事項 2-3 に対応

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)
※チェック事項 2-4 に対応

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒，教員，カリキュラム・教授法，学校経営，地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 29 年度と大きく活動計画を変更する予定はない。これまでの取組を継続して実施し，その中で授業改善を行い，より多面的に考える力やコミュニケーションを図る力を伸ばしていきたいと考えている。地域の人材や，環境をうまく活用し，体験活動を計画的に取り入れ，子どもが主体的に学習を進められるようにしていきたいと考えている。